

サロンでの気づき

サロンを訪問させて頂き、気づいたこと、聞いたことなど、お伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

毎日、本当に暑い日が続きますね。

車から降りるとアスファルトからの強烈な照り返しに目を閉じてしまいます。



お盆休みのイベントも終わり、毎年感じる少し寂しい夏の終わりを迎えました。

私のお盆休みは毎年恒例の新潟帰省(家内の生まれ)です。いつもの温泉宿に泊まるのですが、今年で6年目になります。宿の方もいつも満面の笑みで迎えてくれます。

6年目ともなると我家に帰ってきた感じです。

いつもの大部屋に集まって過ごす時間はとても楽しいひとときです。

ことし米寿を迎えた義母と二人で話す時間があって、「みんなが嫌がらずに毎年集まってくることが本当にうれしい。

今日が終われば、また来年にむけて、明日からスタート。元気で頑張らないと。」と言っていました。



また、毎年少しずつ体調が悪くなっていく義父のことを義母は「今こうして時間を過ごさせて頂いているのも、お父さんが頑張ってくれたから。当時の妙高(新潟の豪雪地帯です)では、大学に二人入れるのは周りの人から無理だと言われていたんだよ。長男は一度は美大を諦めて就職したが、就職した名古屋から半年で帰ってきて、やっぱり美大に行きたいと…。それで、サラリーマンだったお父さんは頑張って残業し、大晦日も働いて、入学金と学費を用意してくれた。今、長男が美術の先生になり、いつも大好きな絵を描いているのを見ると、あの時頑

張って良かったなと思う。次男も音大に行きたいと言って、二浪したけど、音楽の仕事について頑張っている。お父さんは今、体調が悪くなっているけど、今こうしてられるのもお父さんが頑張ってくれたから。あなたも頑張つてね。」と肩をたたかれました。自分たちの生き様を伝えたかったのだと思います。



それと、今年の三月に北海道で酪農の仕事をしている次女も帰省し、仕事はとっても楽しいと言っていました。



以前『たにぐちだより』に書いた

『明元素(めいげんそ)を心掛けているそうです。家にいた時に話したことを覚えていてくれたようです。

「お母さん(牧場の奥さん)に言われたことに、素直に『はい』って返事すると、すごくかわいがってくれるよ」と言っていました。『暗病反(暗くて病んでて反抗的)でなく、『明元素(めいげんそ)明るく元気で素直』が基本なんですね。



続いて、お盆休みにインドに旅行に行かれた先生の話をご紹介します。

「インドに行って人生観が変わった。沐浴で有名なガンジス川ベナレスに行つて、路上生活者や裸足で



※裏面に続く

歩いている人などを見て、今の自分がどれだけ恵まれているのか気づかされた。今の生活に不平、不満、文句ばかり言っている自分を反省し、もっともっと当たり前のことに感謝しないといけない。ぜひ一度行ってみたらいいですよ。」と話してくれました。

テレビでガンジス川の沐浴の風景は見たことがありますが、実際に行ってみないとわからないと思いました。



最後にお盆休みに読んだ本を紹介させていただきます。いつもの山の本屋さんにおすすめしていただいた本です。

『夏の庭』 湯本香樹実著

小説はあまり読まない私ですが、店長から「美しい絵を見ているような小説」とすすめられ読んでみました。描写がとてもきれいで、自分も少年時代に戻って仲間に入っているような気になりました。読み終えると心の中が何だか温かくなりました。



『里山資本主義』 藻谷浩介著

身近な中国地方の過疎地での実例を9紹介しながら、著者が日本を救う究極のシステムを提言しています。これからの時代、何を大切に生きていくのか、とても参考になりました。



新潟の海

いろんなことがあったお盆休みでしたが、振り返ってみると、致知9月号に掲載されていた常岡一郎氏の言葉が思い浮かんできたのでご紹介させていただきます。

人生は心の持ち方が大事であり、心の持ち方によって人生は決まる。

▼自分一人の尊さを知る。今日一日、今一刻の有難さを知る。これを離れて人生はない。大切にせねばならぬのは今日一日の生き方である。自分一人のみがき方である。大きい理想、高い希望も大切である。しかし、それは今日、今、自分自身からのみ生まれて来る。

▼仕事は辛い。しかしこれもつとめだ。こう思って働く人は疲れやすい。辛いが辛抱する人もある。辛抱は暗い心の姿である。いつかは限度が来る。明るくひらける道は、仕事をたのしむことである。

働くことが好きな心。これには暗さがわからない。働くほど自信が出来る。よろこびもわく。なんでも勇んで取り組む構え。常に明るく働く心構え。これが一番たのしい生き方になる。

▼心の花。これは心の開いた姿である。悲しみは心を閉ざす。病みわずらい、怨み、のろい。これは暗い心、開けない心である。

いままでうらみのろっていた心も、なるほどそうかとうなずけば明るく晴れる。心が開ける。うなずく心、陽気な心、感謝の心、感激の心、これが心の花の開いた姿である。

来年も楽しいお盆が迎えられるよう頑張ってください。